



創立平成 22 年 9 月 16 日

# プロバスだより

令和 3 年 4 月 15 日発行

第 123 号

## 東京日野プロバスクラブ

「健康・安全を第一に、楽しく 持続的な クラブ活動を発展させよう」

令和 2 年度 (2020 年度)

会長 矢野 凱弓

幹事 渡辺 明

令和 3 年 3 月 18 日

通算 114 回 の例会はコロナ禍で中止

(クラブ第 11 年度 第 10 号)

### 理 事 会

令和 3 年 3 月 1 日 (木) 緊急事態宣言の 2 週間延長下、多摩平ふれあい館 (図書館 2 階) で開催。理事 8 名出席。コロナ禍で例会場が閉鎖され、残念ながら 3 月 1 8 日の例会中止を決定。本日の議事録を会報 1 2 2 号と共に全会員に郵送することとする。なお、幹事報告の中に会議内容の要約を再録する。

### 会 長 挨拶

矢野 凱弓 会長

3 月も下旬なのに宮中歌会始がテレビで実況中継され「人々の願いと努力が実を結び 平らけき世の到るを祈る」がみやびやかに朗詠される。翌朝の新聞歌壇に「ウイルスが心あらため善玉に 変わったと聞く 2 月 3 0 日の朝」を見つけて思わず微笑です。



コロナ自粛のお陰か、日々新たな発見があります。吟味されていない偽ニュースが偽映像と共に SNS 上で飛び交う。危険極まりないと首をすくめる。数字やグラフを出されると、信用したくなるがこれも少々危険。主張を通すために都合の良い数字だけ取りあげ、都合の悪い部分は知らん顔をしているケースの何と多い事か。情報を読み取る個々人の力量が問われる時代だ。

さて、首都圏の緊急事態宣言は 3 月 21 日に解除され高幡不動尊の客殿利用も解禁された。やっと例会再開が実現できそうで、準備する四役会や理事会にも気合いが入る。聖火リレーもスタートし、ワクチン接種も近い。一方で変異ウイルスの跋扈 (ばっこ) という悪いニュースも出てきた。どうも一筋縄では行かない。慌てず騒がず「健康安全を第一」に可能な範囲で楽しいクラブ活動を展開しましょう。

全会員に寄稿頂いた創立十周年記念誌が完成したとの報を受けました。来週にはお手元に届くと思います。どうぞお楽しみ下さい。(21 年 3 月末記)

### 幹 事 報 告

渡辺 明 幹事

- ① 3 月例会は緊急事態延長下であり、例会場も閉鎖されているので、開催中止が理事会決定された。
- ② 故泊谷時男氏葬儀 (2 月 15 日) の報告
- ③ 十周年記念誌は 3 月末迄に完成予定 会員に早く届ける具体策を検討。理事による宅配も実施。
- ④ 新選組まつりは 5 月 8 日の 1 日開催。市民会館での隊士コンテストが中心行事。6 名が参加予定。
- ⑤ 先月の討議に基づき今年度の収支仕上がり試算が説明され意見交換。4 月例会にて下期会費を集金予定だが、次回理事会で最終決定する。
- ⑥ 埼玉浮き城 P C より「十周年記念式典を 4 月 18 日に内々で行う」との丁重な書状
- ⑦ 日野市より市民病院へのストレッチャー寄贈の礼状



### 委 員 会 報 告

例会委員会：3 月 6 日に委員会会合実施 (理事 6 名がオブザーバー参加) 野外例会なども討議された。

情報委員会：プロバスだより 1 2 2 号の発行。投稿を歓迎。

会員委員会：会員番号制度の新設を検討中。

研修委員会：コロナ次第だが、渋沢栄一記念館研修を検討。

地域奉仕委員会：新選組まつり等への支援は予算通り執行。多摩川浅川クリーン作戦は 4 月 25 日に開催。

ゴルフ同好会：第 16 回コンペを長竹 C C にて 4 月 16 日に予定。5 月 27 日には飛火野 R C 幹事による日野 3 クラブゴルフコンペを予定。

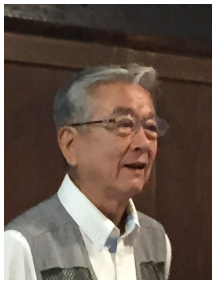
麻雀同好会：コロナ禍で開催自粛を継続中。

## 誕生日スピーチに代えて

《1月》

「傘寿を迎えて」

奥 修兵 会員



鬱陶しいコロナ禍の中、1月18日に80歳の誕生日を迎えました。

○コロナウィルスに絶対感染しないこと、医療従事者にこれ以上の負担はかけられません。

○タバコ……止めました。

○酒……止めません。

○庭の植物たちとの付き合いをもっと深めること

○おそらく最後になるであろう帆船模型(ラ・クロン)の完成を目指す。

以上、最近の心境です。

「年頭に思うこと」

宮地 公平 会員



昭和22年1月8日生まれで74歳になります。

自分の顔つきはあまりよくない・・・自分で写真を撮る機会が多かったので自分の写真は、ほとんどありません。何かの機会で撮っていただきと、周りの方は見慣れた顔で、全く違和感はありませんが、約1名顔つきの悪いのが私。前々からそう感じていました。微笑めばそれほどでもないものの何か不自然。去年は「怒らない」をテーマにしました。2021年度は、「にっこり」をテーマにします。「強く、たくましく」を目指してきた私にとって、相当難しい命題ですが、努力したいと思っています。「にっこり笑顔で、朝の挨拶」今年はこちらからです。

《2月》

「誕生月を迎えて」

土方 尚功 会員



2月25日で76歳になりました。

昨年から続くコロナ禍によって十周年記念式典、祝賀会も断念されて、記念例会となりました。他の様々な行事等も開催できない状況に追い込まれましたことは、非常に残念な思いですが、行政や企業に於いても同様です。一日も早い時点でのコロナの終結を

願うところです。

今日、素晴らしい十周年記念誌が刊行されたことは、大きく評価とさせていただきます。

今後ともに、東京日野プロバスクラブ発展のために種々協力させていただきたいと思っております。

《3月》

篠原 昭雄 会員

「コロナ禍の最中 卒寿を超えて」

昨年始まったコロナ禍によって大変な苦境に苛まれました。それを何とか克服しようと傾注していた最中、私は人生の先端とも言える卒寿を迎えました。



顧みれば大学卒業後、戦後の就職難の時期に都立北野高校社会科教師になり、その後大泉高校、日比谷高校を経て、不惑の年に文部省に入り、国の教育の指導行政に携わって幾多の先生方との親交を重ねました。知命の年に信州大学、筑波大学等の大学人となり、多くの教え子

や研究者と交わりました。古希の年、日野市教育センター所長や(財)アジア・アフリカ文化財団の専務理事を兼務し、傘寿の年には同財団の理事長・同語学院長などとして得難い経験もしました。今は東京日野プロバスクラブの一員でもあります。

これらを通して私には、一貫して“怒”の心に基づき誠意をもって対応してきた思いが残っております。この度も親交を持つこれらの人たちから教師冥利に尽きる多くの祝言をいただきました。

「生かされて 卒寿を迎え 謝する春」

コロナ禍は、社会的な大混乱や生命・生活の苦境、そして社会的な大変化をもたらしました。私たちはその波に呑み込まれないよう新たな生き方を模索しなければなりません。

“これからどう生きるか”と考えたとき「百尺竿頭進一步」という禅語が頭に浮かびました。竿頭という人生の先端に登りつめても更に向上の工夫を加えてなお一步踏み出すという意味です。“生きる”には様々な意味がありますがそれが人間としての営みの根幹に係るほど文化に根付くと考えます。それを踏まえ健康長寿の3本柱(食事・運動・社会参加)をモットーにあとしばらく世のため人のために頑張ろうと思っています。

(知命=50歳の異称。天命を知ること)

※紙面の都合上、該当者全員の方をお載せできませんでした。

1月生まれ：中村 房次郎 矢野 凱弓 舟橋 洋 保母 錠治

3月生まれ：久保 正男 黒澤 直明

(敬称略)

編集・発行：東京日野プロバスクラブ 情報委員会

大島芳幸、魚住 徹、篠原昭雄、山本英次、

小西弘純 本部 皓允 小林昭治

ホームページ：<https://www.hinopc.com>

検索には「日野プロバス」でクリック!!

若しくは、QRコードを読み取ってください

